

夢物語大賞を募集

ことは、日本の夜明けへの扉をたたいた幕末の蘭学者、高野長英が亡くなってから160年の年に当たります。市と市教育委員会、高野長英没後160年記念事業実行委員会では、長英が著した「夢物語」にちなみ、全国・全世界から皆さんの夢を募集します。「かなえたい夢」「誰かに伝えたい夢」「未来への夢」などをメッセージにして、ご応募ください。

長英の生涯と夢物語

1804（文化元）年、長英は、江戸時代にこの地域を治めていた留守家の家臣、後藤実慶の三男として誕生しました。長英が9歳のときに父が亡くなり、母の実家である高野家に戻って養子となります。

17歳で故郷を旅立ち、江戸で蘭学を学んだ長英は、その後、鎖国中だった日本で唯一外国との窓口が開いていた長崎へ留学。「鳴滝塾」でシーボルトに学び、世界へと目を開いていきます。

1838（天保9）年、諸外国の開国要求と植民地化の中、日本の将来を憂いた長英は、日本がとるべき外交政策を「夢物語」に著しました。

夢物語大賞の募集

近年、厳しい経済情勢や社会の変化などによって、夢や希望を語ることが少なくなってきました。日本があるべき姿を描いた高野長英に思いをはせ、わたしたち自身が奮い立ち、未来への扉をたたくような「夢」を広く募集します。応募の範囲は、

国内だけではなく、全世界が対象です。「現代の夢物語」として、皆さんが思い描く夢をメッセージにして、お寄せください。

■募集内容 「かなえたい夢」「誰かに伝えたい夢」「未来への夢」など、夢をテーマとした作文、エッセイ、小論文などを募集。未発表作品に限る。

■応募資格 年齢、国籍、職業、個人、団体を問わない

■応募原稿の様式

学生部門、小学生部門）で大賞を1作品選ぶほか、佳作7篇も選定

■入賞者発表 22年3月下旬予定（入賞者には封書で連絡）

■入賞者表彰 22年5月5日に開催する高野長英誕生祭で表彰と副賞の贈呈を行う

夢物語大賞の副賞

この事業の趣旨をご理解いただいた団体からの協賛も含め、

次のとおり副賞を用意しました。奮ってご応募ください。

■副賞

【大賞】▽一般部門：50万円、▽高校生部門：5万円、▽小学生部門：奨学奨励商品券（3万円相当）、▽小学生部門：奨学奨励商品券（3万円相当）

【佳作】▽奥州市医師会賞：10万円、▽JA岩手ふるさと賞：前沢牛1頭、▽JA江刺賞：江刺金札米（ひとめぼれ）

30分、▽水沢観光協会賞：水沢南部鉄器1点、▽歴史公園えさし藤原の郷賞：正式十二単着付け体験（写真撮影込み）

▽ペア券1組、▽クアパークひめかゆ賞：1泊2日宿泊ペア券1組、▽サンホテル衣川荘賞：1泊2日宿泊ペア券1組

■問い合わせ 市教育委員会事務局歴史遺産課（江刺総合支所内線441）



高野長英著「夢物語」（高野長英記念館蔵）

1838（天保9）年、諸外国の開国要求に揺れる現状を憂い、日本がとるべき外交政策を示した書。身の危険を避けるため、夢に出てきた人の話として記される。写本として流行し、社会的反響を呼んだため、長英は「幕政批判」の罪に問われることになった

【手書き原稿】日本語で縦書き。400字詰め原稿用紙で、小学生2枚以内、中学生5枚以内、高校生・一般は8枚以内

【パソコン原稿】1行40字×25行設定のA4サイズ。400字詰め換算した場合の枚数を記入する

※両方とも難読漢字には振り仮名をつけること

■応募方法

【郵便】原稿タイトル（題名）に、住所、氏名（ふりがな）、性別、年齢、職業または学校名・学年、電話番号を記入の上、次のあて先へ郵送

T023-11199 岩手県奥州市江刺区江刺郵便局留「高野長英夢物語大賞」係

【電子メール】添付原稿の名称

◇メールアドレス：yume@city.oshu.iwate.jp

■応募期限 平成22年2月22日必着（当日消印有効）

■入賞作品選考 直木賞作家の高橋克彦さんが審査委員長を務める審査会で選考。各部門（一般部門、高校生部門、中

～高野長英没後160年記念シンポジウム～

高野長英を大いに語る

広報おうしゅうお知らせ版10月号でもお知らせしましたが、高野長英の没後160年を記念したシンポジウムを開催します。元東京大学教授の野村正雄氏が「蘭学に夢を託した高野長英」と題して講演するほか、直木賞作家の高橋克彦氏らによる討論会も行われます。新たな高野長英像を描く瞬間に、皆さんも立ち会ってみませんか。

■日時 11月15日（日）午後1時30分～

■会場 市文化会館（Zホール）

■内容

《基調講演》

「蘭学に夢を託した高野長英」

講師 野村正雄氏（元東京大学教授）

《シンポジウム》

○司会

平塚 均氏（高野長英顕彰会長）

○パネラー

高橋克彦氏（直木賞作家）

野村正雄氏（元東京大学教授）

千田捷熙氏（『夢魂の人高野長英私論』著者）

佐久間賢氏（市教育委員会事務局歴史遺産課長）

■入場料 無料

■問い合わせ

市教育委員会事務局

歴史遺産課（江刺総合支所内線441）



野村正雄氏



高橋克彦氏